

激動の第2次世界大戦

太平洋戦争と町民の暮らし

昭和16年(1941)12月8日、太平洋戦争が勃発すると、働き手である若者が次から次へと徴兵され、家に残っているのは子どもと女性・老人だけとなり、「銃後の守り」を固めていました。

また、多くの戦死者が相次ぎ、さらにアメリカ軍の爆撃で恐怖の毎日が続きました。衣・食・住すべてが不足する中で、児童・生徒も食糧増産や義勇軍・工場などへと徴用されていきました。

戦争末期には、日清紡が爆撃を受け(1945年7月30日)多大の損害をこうむりました。



◀平和之塔

能登川町内の戦没者

西南の役	3名
日清戦争	4名
日露戦争	29名
中国朝鮮占領中	5名
満州事変	1名
日中戦争	41名
太平洋戦争	523名
計	606名

平和之塔に納められている英霊簿より



▲出征兵士



▶戦死者の村葬
(栗見出家)



能登川町の誕生

昭和15年(1940)能登川駅前の商工業地区を中心にまず五峰村と八幡村の合併が計画され、その後、栗見村・伊庭村・能登川村を含めた5カ村の合併による町制施行が企てられました。このように昭和17年2月11日、能登川町が成立しました。

しかし、一部旧村の中には分村を主張する人々が分村運動を起こしましたが、分村は時代の流れに逆行するものとして県議会の承認が得られませんでした。



初代町議会議員